

鈴木眞年
編纂

裁

未

編初

一

7/13

924

1

和装本



鈴木真年編纂

裁判議案

初編 三冊

明治八年三月上許

裁判議案序

法官之斷罪。於良匠之瘡。有
 歟。能用法。而不用於法。亦
 不能也。皇國法典。遠傳自
 往昔。隆乎古今之度。寬狹之

7 13
 924

裁判議案

卷之

序一

日中

異。以今之律例二書為大成矣。
然情例兩端。起狀不出。權衡
一失。而生死判為。有紙二書。而能
贖者矣。此也。察之情實。詳之起
狀。隨時制宜。然後權衡得平。而

無枉濫之失矣。是如良醫之洞
察病源。投之以藥。蓋非通曉
脈理。深却法外之意者。安得
無輕重失當哉。法官之任。可謂
甚重且難矣。明濬格中屬。

鈴木真年君。取經法官之裁
法名。編以彙輯。哀然成帙。名
曰裁中深案。徵自一言。受而
閱之。分類正。而便於參考。例案
備。而易於援比。凡有獄獄之責

者。誠舉是書。而會通之。以為
二書之羽翼。必於祥而恤民
之意。其所裨補。豈淺鮮云
乎哉。為之序。

紀元二千五百二十五年四月

明法權大居士林昇撰



於卯年秋書

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

裁判議案卷之一

鈴木真年編纂

從明治六年後第一号

到 七年 第百号

當省日誌出版スルモノ嚮ニ第三十九号ニ止リ

追々續出スルモノアリト虫モ令般改定律例御

頒布ニツキ從前單行律例及ヒ律案指令等一切

同日ヨリ援引不相成旨御布令アリ故ニ四十号

以下ハ之ヲ舍キ更ニ本月^{七月}十日ヲ以テ筆ヲ起

シ是ヲ明治六年後第一号トナス

當省百二十四号 六年八月三日

當省日誌ハ各府縣伺ノ指令ヲ全載スルト虽モ其伺面ニ至テハ往々節録スルアレハ一概之ニ據テ難比擬候間律ニ正條無之者ハ假令日誌上の例有之候共伺ヲ經サレハ右ヲ援引致候儀不相成候條此旨相違候事

七年一月廿日 各裁判所各縣へ布達

明治六年第百二十四号ヲ以テ當省日誌援引不相成旨布達致シ置候処右ハ罪案ヲ以テ伺出候

分ノ三ノ儀ニテ律文ノ伺指令トモ全載スル者ニ限リ援引比擬不苦候條此旨更ニ相違候事

○圖

懲役限内老疾收贖例圖

誣輕為重收贖例圖

舊惡減免例圖

五等親圖

○名例律

五刑

閏刑

官吏犯公罪

官吏犯私罪

有官僧徒犯罪

糾彈官吏犯罪

懲役人又犯罪

犯罪存留養親

婦女犯罪

平民犯罪不實斷

老少癡疾收贖

犯時未老疾

給沒贓物

犯罪自首

二罪俱發以重論

犯罪共逃

同僚犯公罪

公事失錯

共犯罪分首從

犯罪事發逃走

加減罪例

再犯加等罪例

稱同罪

稱日者以二十四時

稱等內人

斷罪依新頒律

○職制律

棄毀官文書

詔書有違

擅離職役

出納有違

私借官物

不覺被盜

○戶督律

欺隱田糧

棄毀器物稼穡

立嫡違法

子弟私擅用財

逃亡

○賊盜律

盜大祀神御物

盜官文書

強盜

竊盜

盜田野穀麥

親屬相盜

雇人盜家長財物

恐喝取財

詐欺取財

畧賣人

兇徒聚眾

盜賊窩主

○人命律

闖歐及故殺

過失殺傷人

弓銃殺傷人

車馬殺傷人

瘋癲殺人

謀同成

移地界內灰屍

○闖歐律

聞歐

歐本屬長官

歐官吏

歐三等親以下尊長

歐祖父母父母

○罵詈律

罵詈人

○訴訟律

越訴

誣告

○于名犯義

○受贓律

官吏受財

坐贓

○詐偽律

詐偽官文書

偽造官印

偽造寶貨

○犯姦律

犯姦

刑律 卷之十一 田中氏藏

親屬相姦

居喪犯姦

○雜犯律

折毀揭榜場

賭博

失火

費用受寄財產

得遺失物

違令違式

○捕亡律

追捕罪人

罪人拒捕

獄囚脫監及反獄逃走

懲役人逃

主守不覺失囚

陵虐罪囚

○斷獄律

與囚金刃

老幼不拷訊

出入人罪

刑律 卷之十一 田中氏藏

妻 刑 言 婦 人 犯 罪 一 田 中 刑 部 判 官

婦人犯罪

死囚奏請待報

斷罪不當

圖

○懲役限内老疾收贖例圖

第五十八号 度會縣伺

懲役人年齢五十有餘現ニ疾故有リト云ニ非サ
レトモ從來虚弱ナルカ故ニ其子念フテ措能
ワス身ヲ以テ之レニ代ントテ請フ再三竟ニ許

サス後復身之ニ代ルヲ得サレハ願クハ父ノ側
ニ侍レ朝夕肩腰ヲ按摩シ以テ懲役ノ勞ヲ慰シ
ト其情實確憫諒ナルヲ以テ其請ヲ聞置タリ右
等ハ不苦事ニ候哉

指令

其事情ヲ憫諒スヘクモ侍養ヲ聽ス法ナシ但シ
該犯ハ輕役ヲ執シムヘシ

○誣輕為重例圖

第五十八号 京都裁判所伺 以下判所ノ
二字ヲ畧ス

爰ニ甲アリ申訴シテ曰ク某乙ハ金一百圓ノ賊

...

ナリト終ニ受断ヲ經タル後内止タ三十圓ノ實
ヲ得タリ其甲ハ則千人ヲ懲役五年ニ告ケ内止
タ原杖九十実ヲ得タル者ナルヲ以テ改正誣輕
為重ノ例図ニ照シ剩ル所ノ原杖三百三十其三
十ノ零數ヲ除去シテ懲役二年半ニ全抵スヘキ
ニ似タリ然ルニ誣告律人ヲ窃盜贓七十圓ニ誣
告スルキハ其反坐懲役二年相當ノ処前段ノ如
ク誣輕者ノ罪却テ真ノ誣告者ヨリ重シ如此ハ
如何ノ推衡ニ有之ヘクヤ
右同例図中人ヲ懲役十年ニ告ル如ノ下文ニ懲

役四年ヲ全抵スト有之候処四年ノ懲役ハ名例律
徒流人又犯罪ノ條下ニ相見ヘ候ノミニテ五刑
中其名目無之且ツ原杖四百八十ヲ推算スレハ
懲役七年ノ相當ニ可有之ニ猶綱領中同例図ニ
モ徒四年ト有之右ハ別ニ御旨趣有之候哉右前
條了解致兼云々伺

指令

誣輕為重刺罪ニ反坐スルノ法ハ折杖ニ照シテ
科算ス故ニ全誣スル者ノ反坐法ト同シカラス
第二條懲役四年云々ノ如キハ懲役一年ノ折原

杖一百二十懲役三年ノ折原杖三百六十合セテ
四百八十則懲役四年ニ坐ス

○舊惡減免例図

第八号 大阪裁伺

改定律舊惡減免ノ儀ハ華士族平民一般ニ通レ
減量可致ト存候得共其破廉耻ニ係ル者ハ量減
スト虫モ除族可致哉

指令

伺ノ通

○五等親図

第二十一号 愛媛縣伺

五等親図婦人ノ嫁セシモノ人ノ養子トナルモ
ノ其本生父母親屬ニ於ル其親如何

指令

人ニ嫁セシ者人ノ養子トナル者其本生ノ父母
親屬ニ於ル等親ニ差等アル無シ

第三十五号 滋賀縣伺

二等親図中夫ノ父母トアルハ嫁スル妻并ニ妾
ヨリ名状イタス儀ニ候ヤ

右同斷譬ハハ養女トナリ其後養子ノ妻トナル

ハ前條ニ候ヤ又一等親養父母ニ該リ候哉
右同斷夫養子ナレハ其夫ノ實父母モ夫ノ父母
ト名状シ二等親ニ該リ候ヤ
三等親凶中庶子トアルハ妾腹ノ子ニ候ヤ且庶
子ノ子ハ五等親外ニ候ヤ

指令

第一條伺ノ通
第二條配偶ノ後ハ前條ノ通
第三條夫ノ實父母夫ノ父母ト稱セス夫ノ養父
母ヲ指テ父母ト云フ

第四條伺ノ通

名例律

○五刑

第七十七号 伺書

昨明治六年清国ト御條約書中第九條ニ両国ノ
開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置カサル片ハ其人
民云々若シ罪科ヲ犯サハ本人ヲ捕テ吟味ヲ遂
ケ其事情ヲ最寄開港場ノ理事官ヘ掛合律ヲ照
シテ裁斷スヘシト有之候処未タ何レノ開港場

へモ同国理事官差置無之二就テハ若シ同国人
犯罪等有之候節ハ右理事官差置候迄ハ従前ノ
通御国法ヲ以テ処分致シ可然哉裁判上目下差
支候儀有之云々

御指令

伺ノ趣理事官ヲ差置候迄ハ御国法ヲ以テ処分
致シ候儀ト可相心得事

第一号 郡馬裁伺

未決ノ囚人越獄逃亡ヲ企テ未夕脱シ得サル者
ハ監獄則ニ依テ処分スヘキ処未夕行ハレサル

地ニ於テハ杖七十即決スヘキ哉然ル片ハ婦女
ト^凡虫^凡実決シテ不苦哉又口供結案ノ上本罪ノ外
ニ右杖七十日數ニ折シ禁獄申付可然哉

指令

未決已決ノ罪囚監ニ在テ脱越ヲ謀リ未夕逃亡
セサル者ハ監獄則第一則ニ依テ処分スヘキノ処
前日交付ノ棒鎖ノミニテ未増造ノモノ無ク衆
犯一時ニ処スル能ハサレハ杖七十打決スヘシ
婦女ノ初犯ハ獄司箴言警諭シテ其不良ヲ戒メ
仍ホ三犯ニ係ルモノアリ未夕闇室ノ設ナキハ

空監ニ入ルニ昼夜三犯以上ハ四昼夜ヨリ七昼
夜ニ至ルヲ罰期トナシ其犯状ノ輕重ヲ酌量シ
テ之ヲ処スヘシ若シ空監ナケレハ他ノ囚婦ト
雜居ナサシメ処分ニ於テハ罰則第五款ニ從フ
ヘシ

第六号 入間裁伺

改定律令中梟示ハ犯由牌ニ罪状ヲ書シ云々梟
斬絞及懲役五年以上ニ処スル者ハ並ニ罪状ヲ
紙牌ニ書シ三日間犯人本籍ノ掲榜場ニ掲示ス
ト有之付テハ右掲榜場取設及七犯由牌等ハ總

テ地方官取扱ノ儀ト存候得共兼テ心得置申度
云々十六番 第五號同
同ノ旨指令

伺ノ通

○ 閏刑

第七十九号 東京府伺
當府貫屬士族島義勇事今般除族ノ上梟首申付
候旨佐賀縣出張所河野權大判事ヨリ達越候ニ
付テハ跡目相續ノ者其無祿士族ト相心得候様
可申渡哉右ハ改定律例中華士族犯罪中除族ニ

諛ル者ハ收祿シ本犯一人ヲ除シ族ハ子孫ニ襲
シムト有之候ニ付除族ノ上斬罪ニ処シ候モノ
ト虫モ族ハ子孫ニ襲ハシメ不苦ヤノ旨先般及
御問合候処其通り不苦旨御指令有之候ニ依リ
義勇子孫ノ者タリ凡同様申渡不苦若又事ニモ
寄り候儀有之ヤ為念相伺候也

指令

伺ノ通

第二十六号 埼玉縣伺

士族犯罪除族被申付候者士族ノ養子トナリ其

家ヲ續キ候儀不苦候哉 一人ノ平月録ニ載ルハ

指令

伺ノ通但相續ノ為メ除族ノ実子ヲ復籍セシム
ル凡養子ニ准シ候事

第三号 滋賀縣伺

士族一應ノ私罪ハ禁錮ニ処スルノ処無祿ノ者
及ヒ親屬等モ無キ獨身ノ者ハ实地施行ニ於テ
甚差支候云々

指令

懲治監ニ入ル、例ニ依リ役囚ト區別シテ置ク

第二十七号 大分縣伺

士族卒戸主タル者罪ヲ犯シ除族スル片ハ族ヲ
子孫ニ襲カシメ同居ヲ願フ者ハ聽スト虫モ若
シ願ハサル片ハ別居セシメ其妻ハ夫ト共ニ平
民ノ籍ニ編入シ同居スルモ亦夫ノ籍ニ從ヒ可
然哉

華士族除族スル者子孫ト同居別居ヲ問ハス罪
一身ニ止ルニ依リ本犯一人ヲ平民籍ニ編入ス

但妻ハ夫ハ身分ニ從フヘシ
第六十九号 愛知縣伺

昨壬申年二十九号御布告ニ依リ平民ノ籍ニ復
シ終身ノ禄ヲ賜ル者アリ今竊盜一百日以下ノ
罪ヲ犯ス是ヲ律令ニ照スニ華士族ナレハ律令
第十四條破廉耻甚ニ係ル者ハ除族ト為シ其除
族ニ該ル者ハ禄ヲ收ム云々ト有之モ民籍ニ在
テ終身ノ禄ヲ有スル者ヲ犯スノ正條無シ故ニ
禄ヲ收メ尚得ヘキ本罪ヲ実斷シテ可然哉

指令

伺ノ通

○官吏犯公罪條

第九十六号 白川縣伺

譬へハ判任官公私罪ヲ犯スノアツテ待罪状ヲ
差出スニ律ニ擬シ疑ナキ者ハ地方官限ニテ断
決可然哉又ハ待罪状ヲ取具スルノ上御省ニ進
退御処置ヲ乞ヒ可申哉是迄一定ノ規則無之兼テ
心得置度云々

第六十指令

判任官待罪状事院省等ニ關係ナキ分ハ其縣限

ニテ処分スヘシ

第四十六号 東京裁伺

教導職及ヒ其他雇等ノ名目ヲ以テ奉職ノ者等
内外共其準スル官等ニ比較シ官吏公私罪贖例
及ヒ罰俸例図ニ照シ処断シ可然筋トハ存候へ
共云々

指令

本年第二百九十三号御布告ノ通心得ヘシ
但シ雇等ノ名目ニシテ奉職ノ者ハ等内外共其
準スル官等ニ照準シテ処断スヘシ

○官吏犯私罪條

第七号 京都裁伺

官吏犯私罪條例平民官ニ在ル者トハ等外吏モ其内ニアリ依テ其父兄弟子孫一切私罪ハ仍ホ士族ニ準スヘキヤ

京都府伺ニ年寄莊屋ハ等外吏ニ依ルト御指令之アルニ付區戸長等ノ犯罪總テ等外吏ニ準シ父兄弟子孫モ同様ナルカ將夕私罪ハ總テ本籍ヲ以テ論スヘキヤ

但邏卒モ等外吏ニ準スルカ又ハ俸給ノ官費

民費ニ依リ差等アルヤ

指令

第一條伺ノ通改定律例第二十四五條ヲ見合スヘシ

第二條伺ノ通一切ノ私罪ハ前條ヲ見合スヘシ但シ邏卒モ等外吏ニ準ス俸給ハ官費民費ノ差等ナシ

第十二号 堺縣伺

平民ヨリ區長戸長トナル時ハ如何ノ身分ヲ以テ取扱可申哉且家長ナレハ家族ハ如何取扱可

註并註
卷之一
十一
田中

申哉又區戸長罪ヲ犯セハ公罪私罪如何処断可
然ヤ

平民等外吏トナリ家長タレハ其家族ハ如何取
扱可申哉

指令

第一二條區長戸長ハ等外吏ヲ以テ取扱フヘシ
改定律例第二十四五候ニ依テ処断スヘシ
但シ平民官ニ在ル者トハ等外吏ヲモ指テ云フ

○有官僧徒犯罪條

後第七号 三重縣伺

有職ノ僧徒犯罪ハ律ニ擬シ士族ノ法ニ依ル無
論ナリト云モ去己巳四月以後本籍ヲ逃亡スル
者萃士族逃亡ノ法ヲ以テ論シ五十日ニ及ンテ
復歸セサレハ奪職致レ然ルヘキヤ

但五十日限り満テ自首スルト云モ復職ハ不
為致儀候ヤ

無職ノ僧徒前條同様逃亡ノ者如何処置可致候
哉

指令

兩條改定律例逃亡條例ノ通心得ヘシ

戎訓義家 卷之一 十一 田中

裁辨言類 卷之十一 十州 田中 船藏

但有職僧徒逃亡二年復歸之及七自首スルモ復職ヲ許サス凡僧ハ平民ト同シ

第四十号 滋賀縣伺

一寺住職ノ僧侶数人申合金ヲ出シ農民所持ノ古佛ヲ借り受ケ信州善光寺本尊ト偽リ所々ニテ開帳シ衆人ヲ欺キ賽銭ヲ貪ル者アリ其賍金殆ント千圓ニ及ハントス云々

但得ル所ノ財ハ官ニ没シ佛ヲ貸ス者情ヲ知レハ其佛モ亦官ニ没シ可然カ

指令

不應為重キニ問ヒ閔刑ニ処ス但書伺ノ通

○糾彈官吏犯罪條

第三十八号 白川縣伺

改定律例第二十九條凡糾彈官吏ト稱スルハ檢事警保官吏ヲ謂フ云々右ハ裁判所無之地方官ニ於テハ糾彈ノ事務聽訟課ニテ取扱候間令參事以下聽訟掛ノ属吏及ヒ等外吏ヲ指シ糾彈官吏ト可申ヤ

指令

地方官吏ハ糾彈官吏ニ非ス裁判所無之地方ニ

白川縣 卷之十一 田中 船藏

於テハ一時糾弾ノ事務ヲ兼行フト虽モ糾弾官
吏ト同ク論スヘカラス常律ヲ以テ処断スヘシ

○懲役人又犯罪條

第四十九号 愛媛縣伺

懲役終身ノ者役場ニ在リ又懲役百日以下或ハ
一年以上ノ犯罪有之候ハ何律ニ依リ処断可仕
哉

指令

懲役百日以下ノ罪ヲ犯セハ律例第五條ニ照シ
テ棒鎖ニ処ス其一年以上ノ罪ヲ犯ス者アラハ

口書ヲ以テ伺フヘシ

第二十号 茨城裁伺

人民ヨリ懲役人へ係リ金銀貸借等ノ訟ニ依リ
民法裁判上ヨリ喚問スルニ右曠役ノ日数ハ懲
役人犯罪條例第四十四條ノ例ニ依リ曲ナル片
ハ曠役ノ日数ヲ原犯役限内へ算入セズ直ナル
片ハ算入致シ可申哉又民法裁判上ノ儀ニ付都
テ算入セサル儀カ

指令

直ナル片ハ曠役ノ日数役限内ニ算入スヘシ曲

刑罰法 卷之一 第二十一号 日中裁伺

ナル片ハ算入スヘカラス

○平民犯罪不実断條

第十一号 滋賀縣伺

贖罪收贖スヘキ者無力ニシテ贖金ノ全数ヲ出
ス不能ハス其半数又ハ三分ノ一ヲ贖ヘハ贖フ
不能ハサル金數ヲ計ヘ日數ニ折算シ懲役ニ服
シ候ヤ

指令

伺ノ通

第四十四号 白川縣伺

凡犯罪者例ニ依リ贖罪收贖申付宣告ノ日ヨリ
五日以内未タ金納不相濟内本人病死致シ及ヒ
納贖延期中病死スル者ノ処置如何可然哉

指令

五日內及ヒ延期内本犯病死スル者追徴スル
勿レ

○犯罪存留養親條

第十一号 滋賀縣伺

犯罪存留養親條例第三十五條婦女ノ儀不相見
懲役一年以上実断ノ罪ト虽モ全罪ヲ收贖シ可

然乎

指令

伺ノ通

第三十一号 東京裁伺

當府士族 小川信茂

右ハ客歳十二月二日詐欺取財ノ科ニ依リ除族ノ上懲役三年申付候処老母義疾ニテ外ニ侍養ノ子孫無之由ニテ隣家小久保憲美ヨリ別紙^畧之通願出候右ハ老母年七十以上及ヒ癡篤疾ニ至リ候儀ニハ無之共醫按ノ通即令不治ノ症ニ

有之上ハ改定律例第三十六條ニ照シ信茂儀未夕役百日ヲ過サルニ依リ己ニ役スル六十五日ヲ除キ剩ル三十五日ヲ棒鎖一日ニ換ヘ余罪ヲ收贖セシメ可然乎

本文收贖金ハ懲役三年九圓内百日分二圓五十錢ヲ扣除シ残ル六圓五十錢ヲ納贖セシメ可然ヤ

指令

伺ノ通処断スヘシ

○婦女犯罪條

刑罰法 卷之十一 三十一号 東京裁伺

袁半言要 卷之一 十一 田中 此指

第四十四号 千葉裁伺

是迄婦女準盜論罪ヲ犯セハ實決致來候処今般御領行相成候改定律例第九十條ニ凡詐欺恐喝取財等盜ニ準スル罪士族ハ破廉耻甚ヲ以テノス云々ト有ルヲ以テ推衡ヲ取ルニ婦女ノ準盜罪モ詐欺恐喝取財等ハ實斷ニ其棄毀器物等ハ收贖ヲ聽シ然ルヘキヤ

指令

伺ノ通

第二十四号 熊谷裁伺

未決囚并懲役ニ服スル婦人ノ内乳兒ヲ持スル者有之其者資産ニ無之又親族ノ可託者モ無之侍養ニ差支候節戸長親族等連印書面ヲ以テ其母ニ託シ侍養為致度云々

指令

情実已ムヲ得サルヲ審ニシテ伺ノ通処分スベシ

第五十七号 長野縣伺

華士族ノ婦女犯罪アツテ除族ニ処ス者ハ戸主ニ限り候哉

裁判義案 卷之一 十一 田中 此指

指令

華士族ノ婦女姦盜等実決ス可キノ罪ヲ犯スニ相續ノ主タル者ニ非レハ族ヲ除カスト虽モ其大罪ヲ犯スニ破廉耻ニ係リ除族ニ処スル片ハ妻ハ夫ニ從テ民籍ニ編入ス

○老少癡疾收贖

第二号 千葉裁伺

老少癡疾者罪ヲ犯シ收贖スルキ者無カニシテ贖フコト能ハサル者本刑懲役五十日ナレハ折半廿五日ト為シ零ヲ除去スル限ニアラサルヤ

指令

折半ノ日數二十五日ヲ役ス五日ヲ除去スヘカラス

第四十九号 東京裁伺

老少癡疾者罪ヲ犯シ收贖スヘキ者無カニシテ贖フコト能ハサル者折半又ハ五等ヲ減スト虽モ仍ホ使役ニ堪ヘサル者ハ直ニ放免シ可然乎

指令

伺ノ通

○犯時未老疾

第六十五号 東京裁伺

懲役限内老疾ノ無力者放免ノ儀相伺候処百日以上ハ一概ニ放免ヲ聽サスト御指令有之候得
氏別紙藤井金太郎ハ原罪窃盗三犯ノ科ニ依リ
準流十年申付置候処東京府ヨリ掛合有之候通
則篤疾ニ至ル者收贖ヲ可聽ス処無力ニシテ納
贖スルヲ能ハサルニ依リ右体ノ原罪者ハ直チ
ニ放免致シ可然ヤ

指令 二十五日
伺ノ通放免スヘシ

第十二号 若松縣伺

懲役十年ノ者癡疾ニ係リ收贖スヘキニ親族徴
力ニシテ贖ヲ能ハス依テ原料五等ヲ減シ懲役
二年申付ルニ既ニ役過スル日数二年以上ナル
片ハ放免シ可然乎

指令

懲役十年ノ囚二年ヲ役過スルモ未ク三年ヲ過
サレハ七年ノ限ニ入ラス猶十年ノ限内ニ在ル
ニ依リ矢張十年ヨリ五等ヲ減シ懲役二年ニ科
ス強壯ノ時已ニ役過スル二年ヲ老疾後ニ計算

スルヲ用ヒス

○給没贓物條

第十八号 警保寮伺

往来群集ノ場所又ハ旅店ニテ止宿人等拘摸或ハ窃盗ノ為メ金銀物品被盜取候ヲ邏卒番人ニテ右賊捕押其大區警視出張所へ拘引候節事主判然致シ候ハ右金錢物品ハ即被盜人へ相渡証書取置罪囚ト共ニ裁判所へ相送候様致度然ラサレハ旅人等夫カ為時日遷延致シ難渋不少候ニ付云々伺

指令

伺ノ趣ハ事主判然致シ候共裁判所へ可差送分ハ裁判所ニテ取調候上本人へ可相渡候事ハ第二十八号 入間裁伺 贓金計算ノ儀ハ大藏省布告ニ基キ四捨五入ノ方法相用候ヤ又ハ贓金ニ限り現在スル数ヲ以テ毛絲迄ニ相用候テ然ルヘキヤ

指令

贓金ハ計算ハ錢ニ止メテ其罪ヲ擬スヘシ 第五十八号 司法省裁伺書

刑法上ヨリ起ル身代限処分ノ節民法処分同様
職業ニ必要ナル諸物品五十兩迄ノ分ハ可渡遣
哉又ハ右ヲモ追徴致シ時服食料炊道具等ノミ
ヲ可相渡ヤ相伺候也

指令

刑法上ニ於テ枉法不枉法坐贓等ノ追徴スル法
伺面ノ通時服食料炊具等の用ノ品ヲ除キ資力
ノ限リヲ追ス其盜贓ヲ追徴スルハ着服ヲ除ク
ノ外ハ衣類其他の用ノ品ト雖モ資力ノアル限
リヲ追シ數ニ充其不足アルモ並ニ一時追徴ニ

止メ後日ノ産ニ及ハス畢竟民法上身代限ノ法
ト異リトス

第九十九号 司法裁伺

刑法上ヨリ起ル身代限処分ノ儀民法処分同様
職業ニ必用ナル諸物品五十圓迄ノ分可渡遣ヤ
又ハ右ヲモ追徴致シ時服食料炊道具ノミ相渡
スヘクヤ當二月中相伺候刑法ニ於テ枉法不
枉法坐贓等ノ贓ヲ追徴スルノ法伺面ノ通時服
食料炊道具等の用ノ品ヲ除キ資力ノ限リヲ追
ス其盜贓ヲ追徴スルハ着服ヲ除クノ外ハ衣類

其他の用ノ品ト虫モ資力ノアル限リヲ追スヘ
キト云々御指令ニ相成然ルニ因公科歛ノ條ニ
贓已レニ入ル、者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス
トアノ是等ノ如キハ其情窃盜ヨリ重ク被考候
ヘ氏右ノ如キモ御指令ノ通時服食料等ノ的用
ノ品ヲ除キ資力ノ限リ追スヘキ哉

指令

刑法上ニ於テ枉法不枉法坐贓等ノ贓ヲ追徴ス
ルニ時服食料炊道具等の用ノ品ヲ除キ資力限
リヲ追スル法ハ取與共ニ罪アル贓ニテ官ニ没

入ニ係ルヲ以テ稍寛ナリ然レ氏枉法不枉法等
ノ本主ニ還付スル贓ニ係ル者ハ盜贓追徴ノ法
ニ依リ着服ヲ除クノ外資力限リ追ス

第六十六号 兵庫裁伺

盜贓ニ係ルト虫モ買取スルニ公商公賈ニ由ル
者ハ直チニ追徴ヲ不得ノ例ニ候処商賈ニ由ラ
サルモ牙保有テ買取スル者ハ牙保其價ヲ償ハ
サレハ是亦直チニ追徴ヲ不得相心得可得然ヤ
同断牙保有テ買取シ他へ轉賣レ終ニ贓ノ所在
ヲ不知其初買者賣徳金ヲ所持スルキ又ハ費用

スル片其賣買ノ價ニ不拘評價人ノ鑑定ニ因テ
牙保ヨリ事主ニ償還セシメ可然ヤ

一ノ兩替商アリ賊自ラ其竊取スル大判ヲ持來
テ情ヲ匿シテ引換ヲ乞フ其居所氏名ヲ問フニ
某国某町或ハ某村ノ某ト答フ他憎ムヘキナレ
即チ之ヲ替換セリ他日其財主アツテ詐偽若ク
ハ盜贓タルヲ訴フ証據明確ナリ然ルニ其賊ノ
所在ヲ不知捕獲モ亦夕期シ難シ此ノ如キ其判
金融通止ムレノ當時ノ所持主ノ困惑不淺少マ
夕止メサレハ轉輾メ竟ニ所在ヲ知ラサルニ至

リ事主ノ苦情アルヘシ如何若シ右ノ判金綴令
初買ノ者ハ一枚ニ付金七十圓ニ替ヘ置キ轉賣
ノ時二圓或ハ三圓ノ利徳アル者其花利并ニ原
贓ノ判金給没方如何処分可然哉

但賣徳利金ハ費用ト現存トニ依リ區分如何

指令

第一條牙保アリト雖モ買取シテ公商公費ニ由
ラサル者ハ改定律例第五十三條ニ依テ処分ス
ヘシ

第二條正贓轉輾シテ其所在ヲ知ル能ハサレハ

初買者ヨリ代價賣徳ヲ追徴シ本主ニ給ス
 第三四條盜贓タルノ情ヲ知ラス判金ヲ兌換ス
 ルニ判金兌換ノ手ニ現在スト虽モ盜犯金ヲ還
 付スルニ非レハ直ニ追徴スルヲ得ス若シ盜
 犯ヲ捕獲スルニ賠償スヘキ資力ナケレハ事主
 ノ損失トナス

○犯罪自首條

第二十八号 京都裁伺

改定第六十六條罪ヲ首シ減免ヲ經ル後再ヒ同
 罪ヲ犯ス者減免スルヲ聽サストハ強盜監守

常人盜ノ類犯數ニ計ヘ相加等スヘキ者ヲ同罪
 ト做レ候ヤ

同六十八條凡華士族罪ヲ犯シ人ノ告ント欲ス
 ルヲ知テ自首スル者ハ罪減等セスレテ聞刑ニ
 処スト之レアリ候処其聞捕而首及ヒ自首シテ
 贓不可徴モノ其本罪減等スヘキモノハ右ニ準
 シ可申哉

指令

第一條同罪トハ犯數ニ計ヘ加等スヘキ罪ヲノ
 ミ云フニ非ス其餘一切ノ罪犯前後相同キ者ヲ

同罪ト云ノ

第二條伺ノ通

第六十二号 秋田縣伺

官私ノ樹木ヲ毀伐シテ自首スルモノハ倍償ス
ヘカラサルモノト看做シ首免ヲ與ヘサル儀ニ
候哉

指令

倍償スヘカラサル限ニ在ラス自免ヲ與フヘシ

第七十二号 埼玉裁伺

社寺境内其他除地ノ樹木ヲ管廳ノ許可ヲ經ス

自字首誤

擅ニ伐木シテ社寺修繕等ノ用ニ供シ曾テ自用
ニ入レサル者ハ違令律ニ問ヒ罪ヲ論シ自首ス
ル云々亦首免ヲ與ヘ可然哉

指令

伺ノ通

但シ賠償ヲ得サル者トハ金貨ヲ以テ再ヒ得難
キ物ヲ云フ樹木ノ如キハ此限ニアラスト心得
ヘシ

同上擅伐シテ未夕所用ニ供セス木材ノ俛存在
ノモノハ仍ホ木材処分ノ儀ハ管廳ノ指揮ヲ受

ケレメ既ニ費用スルモノハ其終ニ差置且其樹木官林ニ係ラス又自用ニ供セサルヲ以テ代價追徴ノ限ニアラサルカ

指令

擅伐スルモ未タ費用セシテ自首スレハ首免ヲ與ヘ木材処分ノ儀ハ伺ノ通其己ニ費用スルモ社寺修覆等ニ用ヒテ已レニ入レサル者官林社寺境内其他除地ニ論ナク并ニ價ヲ追徴セス第二十八号 度會縣伺 犯罪事癸スルニ因テ別新律及ヒ改定律例ニモ

罪ヲ首スル者ノ律無之譬ヘハ竊盜事癸シ糾問スルニ拷訊ヲ不加シテ自ラ別ニ強盜ヲ犯シ或ハ賭博ヲ犯セシヲ言フ者ノ如キハ自首ニ扱ヒ止タ竊盜ノ罪ニ科シ強盜賭博ノ罪ヲ免シ可然哉

竊盜ヲ犯シ脱走已ニシテ悔悟事主ニ首服セシト欲シ立歸ル途中不審ニ見込捕縛糾問スルニ其詳細ヲ吐露シ首服スルノ情判然スル者ハ自首ヲ以テ論シ可然哉

指令

第一自首ト同ク罪ヲ免スト虫モ若シ強盜ニ因
リ人ヲ殺傷スル者ハ此限ニアラス

第二罪ヲ犯シ事己ニ告発ヲ經ルト虫モ本犯未
タ知ラス及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラサレハ改定律
例第六十條ノ通未發自首ヲ以テ論シ罪ヲ免ス

○二罪俱發以重論

第三十九号 奈良縣伺

爰ニ犯罪アリ一ハ常律ヲ犯シ一ハ諸稅罰則ヲ
犯ス者常律贖金ト諸罰金ト比較シ二罪俱發ト
見做シ金數ノ多ニ依リ一ニ從テ科シ候テ可然

乎常律ト諸稅罰則トハ二罪俱發ノ限ニアラス
ル哉云々伺

指令

二罪俱發律ヲ以テ論セス各自ニ罪ヲ科スヘシ

第二号 千葉縣伺

改定律例第七十三條ニ云々トアルニ依テ假令
ハ竊盜贓六十圓以上ナルヲ五十圓ト供認シ已
ニ懲役一年論決ヲ經其役限内カ或ハ役過スル
後又竊盜再犯贓一圓以下ノ罪ヲ犯シ不尽ノ贓
共發スレハ更ニ半年ト後犯ノ六十日併セテ半

年六十日ニ科云々

指令

伺ノ通

前條後犯ノ罪準盜或ハ逃亡ノ類ニ係レハ二罪俱發以重論ニ依リ科斷シ可然哉

指令

数次ノ犯罪俱ニ發覺スルニ非レハ二罪俱發ヲ以テ論スヘカラス本文ノ如キハ前罪論決ノ後ノ犯罪ニ係ル前犯ノ不尽贓ハ改定律例第七十三條ニ依テ処分シ後犯ノ罪仍ホ律ニ依テ科ス

ヘレ

○犯罪共逃條

第十二号 京都裁伺

犯罪共逃條若シ罪人自ラ首告シ及ヒ恩赦ニ遇テ原免セラレハ連累人モ亦原免ストアリ又主守不覺失囚條ニハ囚己ニ死シ及ヒ自首スレハ各一等ヲ減ストアリ主守ノ覺察ヲ失シ罪囚ハ逃走ニ因テ罪ヲ得ルハ連累ト謂フヘキ因果シテ然ラハ逃走ノ囚自首スルニ依テ其逃罪ヲ免スニ連累ニ因テ罪ヲ得ルモノ僅ニ止々一等

裁非言等 卷之一
三十四 田中
ヲ減スルハ犯罪共逃條ト相矛盾スルニ似タリ
云々伺

指令

主守覺察ニ失シ罪囚ノ逃走ニ因テ罪ヲ得ルハ
連累人ト謂フヘカラス犯罪共逃ト自ラ別ニシ
テ相矛盾スルヲナシ各本律ニ依ルヘシ

○同僚犯公罪條

第四十号 京都裁伺

滋賀縣御指令ニ同僚犯公罪主典點檢シ失アレ
ハトハ縱令ハ文書ヲ施行スルニ主典誤寫シ長

次判官駁正スヘキニ檢点ニ失シ準行スルヲ云
フ則差錯主典ニ由ル故ニ主典ヲ以テ所由トナ
ス判官事ヲ断シテ失アレハトハ假令ハ主典起
案シ罪ヲ断シテ失ナキニ判官之ヲ檢点ニ當リ
罪名ヲ改貼シテ失錯アルヲ云フ則差錯判官ニ
由ル故ニ判官ヲ以テ所由ト為ストアル所若シ
主典罪ヲ断シテ錯誤アルニ判官駁正改貼セス
シテ準行スルモ仍ホ主典ヲ以テ所由トナスヘ
キ哉

指令

裁例 裁察 卷之一
三十五 田中 裁

裁辨諸條 雜之一 三十五

伺ノ通主典ヲ以テ所由トス

○公事失錯

第十二号 和歌山縣伺

御省日誌第四十四号足羽縣伺御指令ニ士族賭博ノ律ハ壬申五月十四日御決定相成居右改正以後ノ犯人ハ貼断致スヘシト有之當縣於テモ右以後士族賭博犯罪ニ依リ除族申付候者有之ニ付貼断仕可然カ就テハ族ヲ復シ没入ノ禄ヲ給更ニ禁錮八十日可申付乎

貼断シテ族禄ヲ復スヘシ更ニ禁錮申付ルニ及ハス

○共犯罪分首從

第六十五号 筑摩縣伺

別居ニ係ル父子兄弟等共ニ罪ヲ犯ス者本條一家共犯罪ニ依ルヘキ者ハ止夕尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セス候テ可然乎殺一家三人條例中同居セスト虽モ父子兄弟等至親ニ係ル者皆是ナリト相見候間右体至親ニ係ル者ハ各居ト雖モ犯罪ニ依ルヘキ儀ニモ可有之哉

茂川義家 卷之二 三十五

指令

各居ノ者ハ一家共犯ノ限ニアラス殺一家三人
條例ト同シカラス

第八号 京都裁伺

父罪アリ其子代テ刑ヲ受ルハ相成ラサル処一
家共犯ノ罪律ヲ按シテ其父ヲ坐スルニ父ノ病
羸ヲ哀ミ其子代ニテヲ願フ者ハ之レヲ許シテ
可然乎

指令

父子共ニ罪ヲ犯スニ父篤疾ニ罹ルハ其子ヲ

坐スルニ首タルハ罪ヲ以テスヘシト虫モ本文
ノ如キハ代罪ヲ聽スノ限ニアラス律ニ依テ科
断スヘシ

○犯罪事発逃走條

第二十一号 愛媛縣伺

茲ニ盜四人アリ甲乙同ク人家ニ忍入衣類五六
十品ヲ盜ム夜中甲衣類并枚ヲ配受シテ之ヲ金
二十九圓ニ賣ル其事主分明ナラスレテ乙未夕
捕縛ニ就カサルヲ以テ其贓ノ全数ヲ知ルニ由
ナケレハ二十兩以上ノ罪杖八十ニ処セサルヘ

カラス丙丁衣類四十品ヲ盗三人同ニク縛ニ就ク其賣拂ノ代金四十圓ナル分明ナルヲ以テ杖一百ニ処ス甲乙ノ脏丙丁ニ過ルハ料知スヘシト虽モ乙ノ未夕縛ニ就カスレテ其脏数ヲ確知スヘカラサルヲ以テ丙丁ニ二等ヲ減セサルヲ得ス此等ノ儀實地上毎々有之併脏ノ処置ニヨリ不平等ノ儀少ナカラス如何

指令

窃盗四人ノ内一人縛ニ就カス名例律犯罪事発逃亡條ニ依リ処分レ其併脏ハ方乙ハ脏知ルヘ

カラスト虽モ事主ハ口供ニ於テ判然タレハ併脏ニテ罪ヲ科スヘシ

加減罪例條

第四十号 若松縣伺

凡犯罪年ヲ歷テ発覚スル者旧惡ヲ以テ論レ例凶ニ照レテ減免ストハ譬ハ懲役終身ニ諱ル罪ヲ犯シ逃亡レテ十年ノ後ニ至リ捕縛スト虽モ罪犯ノ発覚十年ノ前ニアルモハ旧惡ヲ以テ論セス矢張懲役終身可申付哉

指令

袁判言身 卷之一 三十一

伺ノ通

第三十九号 東京裁伺

犯罪年ヲ經テ發覺スル者ハ旧惡減免例圖ニ照
シ減等或ハ免罪スル事ヲ聽スト至モ假令ハ二
次盜ヲ犯ス者一次ハ三年以外一次ハ三年以内
ニアル如キモ三年以外ノ贓ハ除去シ三年以内
ノ贓ノミヲ以テ罪ヲ斷シ可然ヤ又ハ右体ノ者
ハ贓ヲ併セ罪ヲ論シ候云々伺

指令

三年以外ノ贓ハ除去シ三年以内ノ贓ノミヲ以

テ科斷スヘシ入贓再三
但シ贓ノ追スヘキハ追シ事主ニ給ス

○再犯加等罪例

第五十五号 小田縣伺

監守常人ノ二盜再三犯加等條例御創定相成候
處若シ初ノ竊盜次ニ常人盜次ニ監守等各盜相
交ル者盜名ヲ異ニスト至モ犯數ニ計ヘ各其後
犯ハ罪名加等例ニ依リ處斷可然ヤ

指令

竊盜監守常人盜相交ル三犯ハ竊盜三犯ヲ以テ

成川 卷之二 三十一 日下 氏藏

論ス若シ三犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス

第二十四号 熊谷裁伺

明治二己年六月中竊盜贓金一圓以上ヲ犯シ旧
藩適宜ヲ以テ笞一十ニ処決ヲ經同四辛未十一
月中同科ニ依リ杖六十処決ヲ經同七年一月中
竊盜贓金一圓以上ヲ犯シ捕ニ就ク者竊盜三犯
ヲ以テ論シ可然ヤ又ハ己年六月中ノ初犯ハ旧
惡減免例圖ニ照シ除棄シ再犯ヲ以テ論スヘキ
カ

追テ初犯常人盜再三犯竊盜ナル者竊盜三犯

ヲ以テ論シ可然ヤ

指令

竊盜三犯ヲ以テ論スヘシ但シ己ニ斷決セシ犯
罪ハ幾年ヲ經ルト虫モ旧惡ヲ以テ論スル限ニ
アラス追書伺ノ通

第三十八号 白川縣伺

新律再犯加等罪例凡竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ己ニ
官司ノ斷決ヲ經テ再ヒ犯ス者ハ并ニ後犯ノ本
罪ニ一等ヲ加フト有之候処假令ハ初犯監守常
人盜ニシテ再犯竊盜ナル者及ヒ初犯監守盜ニ

ニレテ再犯常人盗ナル者ハ同ク盗罪ナルヲ以テ
 五ニ再犯加等ノ例ニ可有之ヤ且初犯強盗ニレ
 テ再犯常人盗ナル者及ヒ初犯監守常人盗ニレ
 テ再犯強盗ナル者ハ仍ホ初犯ヲ以テ論シ互ニ
 一等ヲ加ヘ三犯以後モ並ニ各律ニ依リ後犯ノ
 本罪ニ加等スヘキヤ云々

指令

初犯監守盗若クハ常人盗ニレテ再犯窃盗ナル
 者及ヒ初犯監守盗ニレテ再犯常人盗ナル者ハ
 窃盗ト同ク并ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ其初

犯強盗ニレテ再犯常人盗ナル者及ヒ初犯監守
 盗若クハ常人盗ニレテ再犯強盗ナル者モ亦同
 シ初犯再犯監守盗若クハ常人盗ニレテ三犯強
 盗ナル者ハ強盗再犯ヲ以テ論シ初犯強盗ニレ
 テ再犯監守盗若クハ常人盗ナル者三犯監守盗
 ナレハ監守盗三犯ヲ以テ論シ常人盗ナレハ常
 人盗三犯ヲ以テ論ス

○稱同罪條

第二十八号 京都裁伺
 改定律例第八十九條凡盗ニ準シテ論スル罪ハ

犯數ニ計ヘストハ真盜ト相加等セサルニテ
初犯再犯準盜ニ係ラハ加等スヘク候ヤ

指令

犯數再三ニ至ルト雖モ加等スルハ限ニアラス

○稱日者以二十四時條

第七十一号 兵庫縣伺

律例第九十一條半年ト称スル者ハ六ヶ月ヲ以
テスト有之候処一ケ年ノ内第六月前後ニ因テ
前半年百八十一日ト後半年百八十四日ニシテ
日數三日ノ差アリ右月ヲ以テ計算スルハ如

何処分可仕ヤ

前條ノ如ク半年ト称スル者ハ懲役日限ヲ算ス
ル等実地上ニ付テ之カ辨ヲナセハ日數百八十
日ト見做シ候モ妨ケナキヤニ相考候ヘ凡七十
以上十五以下ノ年ヲ算スル假令ハ前年第四月
三十日ニ出生シタル者翌年第三月一日ニ至レ
ハ即千十二月ニ亘ルヲ以満一年トナスト雖モ
日數ヲ以テ算スレハ其實三百三十日許ナリ推
テ十五年七十年ニ至ルモ亦終ニ其不足ヲ補フ
ヘカラス殊ニ一昨年十二月ノ二日ヲ以テ一ケ

月ニ充テ候ヘハ合テ八十余日ノ不足アリ年ト
称スルノ律例ト違反スル耳ナラス事理ニ於テ
甚不都合ト存候右ハ如何ノ次第有之哉
逃亡二年以外及ヒ旧惡減免ノ三年ヲ經ル其一
年ハ三百六十五日ト相心得居候処ニケ條ノ如
ク日ヲ以テセス月ヲ以テ算スル儀モ有之如
何相心得ヘキヤ
但シ逃亡者ハ日ヲ以テ算シ其刑期ヲ緩スル
方至當ト相考候ヘ氏旧惡ハ月ヲ以テ算スル
方其減免ヲ速ニスルノ誤ニテ兩岐ニ跋リ何

レニ適從然ルヘキヤ

指令

第一條一月ハ三十日ヲ以テ算ス一ケ年ノ内六
ケ月前後ニ日數ノ差アルモ妨ケナシ
第二條懲役ノ年月日限ハ律例第四條并ニ明治
六年第四十五号御布告ニ照シテ計算ス老幼年
ハ第九十二條ニ依リ満年ヲ以テ算ス
第三條逃亡及ヒ旧惡減免ノ如キハ年ヲ以テ算
ス

○称等内人

第二十三号 山口縣伺

當縣諸大小區々戸長并ニ一時雇ヲ以テ公務為
取扱候者ノ内公罪私罪ヲ犯シ候者ハ本人所擔
ノ輕重ニ從ヒ等内外ヲ分子官吏ニ準シ擬律致
シ可然ヤ又ハ區戸長等ノ如キ定職ノ部并ニ一
時雇ニテ等内外吏ノ事務為取扱候者ト虽モ縣
官ニ非サレハ總テ非職ト見做シ其者ノ本族ニ
依リ処分可然ヤ云々

指令

一時雇ノ者ト虽モ其任スル所ノ等級ニ依テ処

分スヘシ

但シ區戸長及捕亡等外吏ニ準シテ論ス

第七十二号 筑摩縣伺

區長戸長身分取扱ノ儀自今官吏ニ準シ追テ一
定ノ規則相立候マテ區長副區長ハ十二等ヨリ
十五等マテ云々本年第二十八号ヲ以テ御布告
相成候付テハ自今區長副區長一切ハ犯罪判任
官ノ例ニ準シ処分可然ヤ

指令

伺ノ通

第五十七号 伺書

位階勅奏判授區別ノ儀己巳七月中御達有之候
 二付有位ノ輩六位以上ハ奏任官ニ準シ七位以
 下ハ判任官ニ準シ取扱可申ヤ又ハ其後官位相
 當被廢候ニ付テハ位階ノ區別モ相替リ候儀ニ
 有之候ヤ有位非職ノ輩有位ノ判任官又ハ有位
 ノ華士族有位ノ平民等位階ノ等差ニヨリ夫々
 取扱區別モ有之候ヤ

御指令

伺ノ趣從四位以上勅授從八位以上奏授正從九

位判授ト可相心得事

○断罪依新頒律條

第七十三号 伺書

先般御布告揭示規則ノ儀ニ付相伺候処第二百
 十三号御布告ヲ以テ到達ノ上三十日間揭示ノ
 後ハ一般之ヲ知得云々御達有之追テ地方ヨリ
 伺出候向ヘ到達ノ上謄寫摺立并ニ管内一般掲
 示マテノ時間三十日間ニ相加フル儀無之トノ
 御指令ニ相成候右ハ元來摺立或ハ謄寫等多少
 手数相掛リ候モノモ有之到達ヨリ揭示迄ハ日

數定限無之候テハ自然各処區々取扱ヒ相成リ
裁判上種々不都合ヲ生シ候様可立至卜存候依
テ別紙ノ通御布告ニ相成候様致シ度云々

御指令

伺ノ趣第四十八号ヲ以テ相違候條其省明治六
年^{二十}第七^七布達ノ儀モ取消候事

裁判議案卷之一 終

